

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

学校名		吉野ヶ里町立東脊振中学校		
1 前年度 評価結果の概要	・佐賀県学習状況調査において、県平均を上回ることを目指し、今後も継続して授業改善と家庭学習の充実を図る。 ・道徳教育の推進と道徳の時間の内容を充実させ心の教育を推進し、自分や他人の大切さを認め、自らの夢や目標の実現に向けて努力する生徒の育成を目指す。 ・今後も、家庭との連携を大切に、いじめの実態把握と早期対応を徹底する。困ったことや悩みを相談できるように、生徒と日々の関わりを通して、お互いの信頼関係を築く。 ・不登校対策については、教育相談部会(毎週開催)、「不登校生徒支援ネットワーク連絡会(毎月開催)」を活用し、教育相談部会や連絡会の充実を目指す。S C、S S W、外部機関等と連携をとりながら支援を継続する。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、次年度も、長時間労働の解消、健康管理体制の充実等の課題について具体的な改善策を検討し、職員の共通理解を図る。			
2 学校教育目標	「 未来へ へ知性・感性・耐性を、共に高める生徒の育成 」			
3 本年度の重点目標	1 将来へ向けた確かな学力を身につけさせる (知) 2 道徳教育等により、豊かな心を育てる (感) 3 キャリア教育の視点から自立と豊かな自律を促す (耐) 4 安全で生徒が明るく活動する環境をつくる (耐) 5 業務を改善し、教職員の資質・能力を高める			
4 重点取組内容・成果指標		中間評価		
(1)共通評価項目				
	重点取組	具体的取組	中間評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (達成目標)	進捗度 (評価)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実施 ○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●職員アンケートで「あえて」「まとめ」「振り返りの場面において、ステップ3まで到達した授業を実施できた」と回答した生徒80%以上 ○「各教科の授業がわかる」と回答した生徒80%以上	●各教科で、「振り返り」のやり方を生徒に説明をする。 「振り返り」ができる「あえて」「まとめ」「振り返りの場面において、ステップ3まで到達した」との設定をすることを校内研修で確認・伝達をする。 「授業づくり」のステップ1・2・3 Vol.2を読ませ、「ステップ3」の場面を設定する。 ・各教科における「基礎的・基本的知識及び技能」を身につけさせるための手立てを明確にし、授業で実践する。研究授業を各教科1本実施する。	B 7月の生徒アンケートでは、授業で「あえて」「まとめ」「振り返り」の場面を設定しているかに対して、そう思う・いいと思う・思うと回答した生徒は92.9%であった。 授業で使用するタブレットの起動を余裕をもってできるように、教員・生徒ともに授業への移動を早めに行うことを確認した。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ○生徒行動目標「東中生みんなで頑張るHGS」よい挨拶、時間の管理、自問清拭の実践 ○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○道徳に関するアンケートにおいて「自分の道徳性が高まっている」と回答した生徒80%以上 ○道徳の授業づくりに関する校内研修等を実施し、教材研究力と指導力を高める。 ○いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 ○毎週実施する「生活アンケート」において、必要に応じて個別に教育相談を行う。 ・生徒や学活を中心に未然防止の取組を行う。 いじめの認知や定着について年度当初に確認する。 毎月の生徒指導協議会や進路会で情報交換をし、指導方法を検討したりする。 ○各部の年間計画に基づき、学校全体、学年、学級、部活動などすべての教育活動を通じ、習慣化を図る。 ・教師も生徒も一緒になって、挨拶や自問清拭を行う。 ・教師側の早めの行動や教師側が全面的に「チャーム」の実施で、時間を守り行動するようにする。 ○すべての教科等、学校行事を通して夢や目標について自ら考えさせる場面を設ける。また、活動後に振り返る時間を設け、次にどうつながって行くのかを考える場面を設定する。	A 7月の生徒アンケートでは、「各教科の授業が分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒は84.5%であった。 ・各教科において「基礎的・基本的知識及び技能」を身につけさせるための手立てを策定し、全教科で実用している。また、校内研究を兼ねた研究授業に取り組んでいる。 ・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は81%であった。 ・12月には「進路ワーク」及び「人権委員会」を計画している。 ・道徳科の授業づくりに関する教材研究を各学年で協力しながら行い、指導力を高めることができる。 ・毎週実施する「生活アンケート」を実施することができた。必要に応じて個別に教育相談を行うことができた。 ・いじめの認知や定着について、年度当初に確認することができた。毎月の生徒指導協議会において、生徒の情報を交換したり、指導方法を検討したりして組織的に対応することができた。 ・7月のアンケートでは、挨拶ができる生徒は89%、時間を守れる生徒91%、自問清拭ができる生徒89%であった。 ・生徒部会の「チャーム」や「ワーク」を実施し、時間を守って行動する意識が高まった。 ・各部の年間計画に基づき、学校全体、学年、学級、部活動など、すべての教育活動を通じHGSの習慣化を図る。 ・「学校行事に取り組む前に、各学級で目標を設定する場面を設けた。また、学校行事後には、振り返る時間を設け、成長や課題をたどるようにつなげていくのかを考える場面を設定することができた。」	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力」の育成 ○健康や体づくりについて意識づくりの促進	○「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上 ○朝食を食べる生徒90%以上 ○部活動や社会体育、文化活動に積極的に取り組む生徒80% ○感染症予防を徹底している生徒90%	A 7月のアンケートでは、「健康に食事は大切である」と考える生徒は90%、朝食を食べる生徒は94%であり、どちらも目標数値を達成できている。授業や学活、各種お祭り等で、時宜に応じた食事や健康に関する話題を取り上げている。 ・感染症対策として休業日の部活動の際に、顧問生徒の体温チェックを欠かさず行うことが出来ているため、継続していく。 ・部活動において、平日放課後に顧問の出張や生徒指導員に等が頻なり、臨場指導を行うことができなかったことがあった。 ・給食の励励は徹底できている。このまま継続する。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○より適正な部活動の推進と健康管理体制の充実	●教育委員会報告に拠る時間外在校等時間の上限を遵守する ○教育委員会が示す部活動ガイドラインや「部活動活動方針」に基づき、適正な部活動を目指す ○教職員のメンタルヘルス対策を推進する	B ・定時退勤日を設定し、運動を促す。 ・勤務時間外に多い職員に個別に面談を行う。 ・夏季休暇5日の完全取得と年休7日以上全員取得を促す。 ・「部活動休業日」(部活動活動方針)に定め、実施を徹底し、保護者に通知する。 ・「管理職は時間外勤務が多い教職員に対する産業医(学校医)による面談を奨励する。毎月、健康情報誌Smileを活用し職員のメンタルヘルスに対する意識を高める。 ・「会議日を部活動休業日に設定し、実施を徹底した。時間外勤務が多い教職員に面談を行い、産業医面談を勧めている。毎月、健康情報誌Smileを活用することにより、職員のメンタルヘルスに対する意識が高まっている。 ・不登校率は9月末時点で3.03%である。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	重点取組	具体的取組	中間評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (達成目標)	進捗度 (評価)	
○不登校対策の推進	○不登校及び不登校傾向の生徒に対する体制づくりの促進	○教育相談生徒を中心とした「つなぐ」「働きかける」をキーワードに、全職員が共通理解したうえで、不登校の生徒や家庭に働きかけることにより、不登校生徒の出席率をあげる。 ○新たな不登校生徒を出さないための未然防止対策に努め、不登校率5%以下とする。	A ・担任・1の家庭訪問や保護者同伴の「別室登校」、欠席をした生徒に欠かさず電話連絡を行うなど、保護者と話をする機会を積極的に作り、保護者の意向を聞きながら、チームで対応している。チームで対応している。自己有用感を高めるための指導をつくり、承認と称賛を与える。 ・学校適応指導教室や関係機関との連携を図る。	
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・意を高める教育				
5 総合評価・次年度への展望				